

ライスアイランド

R I weekly レポート

～ シリアル・ルネッサンス～

<http://www.riceisland.co.jp>

食糧環境ゼミナール 穀物 世界で収穫減

レスター・ブラウン(米地球政策研究所理事長)が世界の穀物収穫量減少による穀物市場の大混乱を予測する記事が、10月19日付けの読売新聞に掲載されました。

「2000年以降、穀物の収穫量が消費量に満たない年が続いている。これは前例のない事態である。不足分は、2000年には1600万トンの控えめなものだったが、2001年には2700万トンに増え、2002年には9600万トンという記録的な数字を示した。9月11日に米農水省が発表した作況状況の需給見通しによると、今年の収穫量は推定消費量19億1100万トンを大きく下回る18億1800万トンに縮小し、昨年の記録的数字に近い9300万トンが不足することになる。

…もし、去年や今年のように大きな不足分が2004年にも再び生じれば、来年の今ごろには世界の穀物市場が大混乱に陥り、100を超える穀物輸入諸国は、わずかな量の輸出可能な供給食糧を求めて、先を争うことになりかねない。」

穀物が不足することが予測されるなか、穀物を家畜に食べさせその後人間が肉を食べるという非効率なスタイルが先進諸国では共通の現象です。中村三郎著『肉食が地球を滅ぼす』によると、世界で生産される穀物の半分に近い8億トン以上が飼料として消費されているとあります。

「肉食1キログラムの生産に要する穀物量は、ブロイラーで2キログラム、豚で4キログラム、牛にいたっては8キログラムになるという。…穀物によって生産された肉を食べるということは、人間が穀物を直接食べるよりもはるかに無駄な方法で作られた食物を採り入れることなのである。」

私たち日本人は、長い間穀類やいも類を主食として食べてきました。その食生活が大きく変化し、穀物の消費量が大きく減少しました。代わって増加したのが肉類の消費量です。日本人一日一人当たりの食品摂取量の推移をみると、1950年には鳥獣肉類の摂取量が8.4gだったが1998年には77.5gと約10倍になっています。一方、1950年に米の摂取量は338.7gだったのが1998年には164.8gと半分以下に、大麦・穀類も63.9gから2.2gにまで減少しています(第一出版「国民栄養の現状」より)。

肉食に偏った食生活になっていますが、『素食生活』では日本人が昔から食べてきた穀物をベースにした食生活をご提案しています。

お役立ち！情報ボックス

オレンジページ発行の「元気がでる『食』の本 vol.4」に、『素食生活』が掲載されました。

『素食生活』炊き込みシリーズの「五種雑穀米」「発芽玄米」「きび」「あわ」「黒米」「赤米」「そばの実」「押し麦」「はと麦」が栄養効果とともに、写真入で掲載されました。また、雑穀の定番ご飯・スープ・サラダの簡単レシピが紹介されています。



来週のR.Iレポートは、「IBAの報告」です。11/17のお届けです。

e-mailでの発信も予定しております。ご希望の方はチェックしてご返信ください

不要の方はチェックしてご返信ください。

FAX 058-252-5115 TEL _____

御社名 _____

担当様 _____

e-mailアドレス _____